

# 21世紀最初の12年間でみる三重県経済の特徴

平成27年9月

三重県戦略企画部 統計課

## (要旨)

- ☞ 21世紀最初の12年間(2001～2012年度)における県内総生産の動きを分析します。
- ☞ 1人当たり県内総生産を『就業者比率』と『労働生産性』に要因分解し、その特徴を探ります。

### 1. 県内総生産の全国シェア、伸び率日本一

図1は、2012年度における県内総生産(実質、連鎖方式)を表した地図グラフになります。三重県は約8.7兆円で17位となっており、全国シェア(国内総生産にて再計算)は1.6%を占めています(図2)。しかし、21世紀最初の12年間(2001～2012年度)で、その全国シェア指数の推移をみると、三重県は全国で一番高い伸び率となっています(図3)。

図1 県内総生産(実質連鎖)とシェア(2012年度)

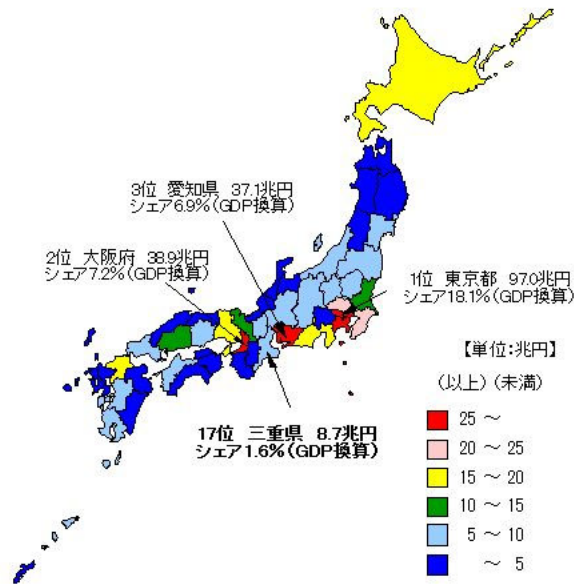


図2 県内総生産(実質連鎖)の全国シェア(2012年度、GDP換算)

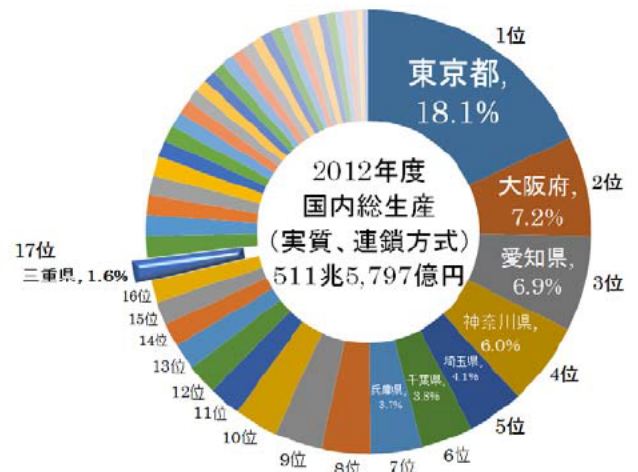


図3 県内総生産(実質連鎖)の全国シェア指数の推移(2001年度=100)

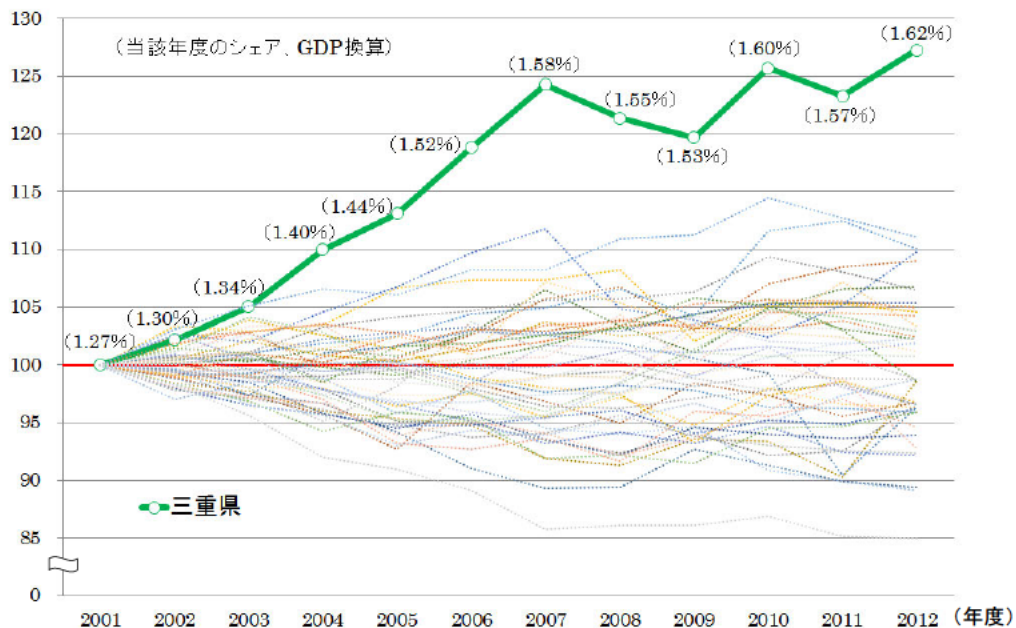


図1～3 (出所)『県民経済計算(平成13～24年度)』:内閣府  
『国民経済計算2013年度確報』:内閣府

2. 県内総生産の増加額、伸び率日本一

図4は、2012年度における県内総生産(実質、連鎖方式)の2001年度からの増加額(全国分を国内総生産にて再計算)を表した地図グラフになります。三重県は約2.4兆円で5位となっており、全国シェア(国内総生産にて再計算)は5.1%を占めています(図5、6)。しかし、21世紀最初の12年間(2001～2012年度)で、県内総生産額の推移を指数化したグラフをみると、三重県は全国で一番高い伸び率となっています(図7)。

図4 2001年度からの県内総生産(実質連鎖)の増加額(2012年度、GDP換算)

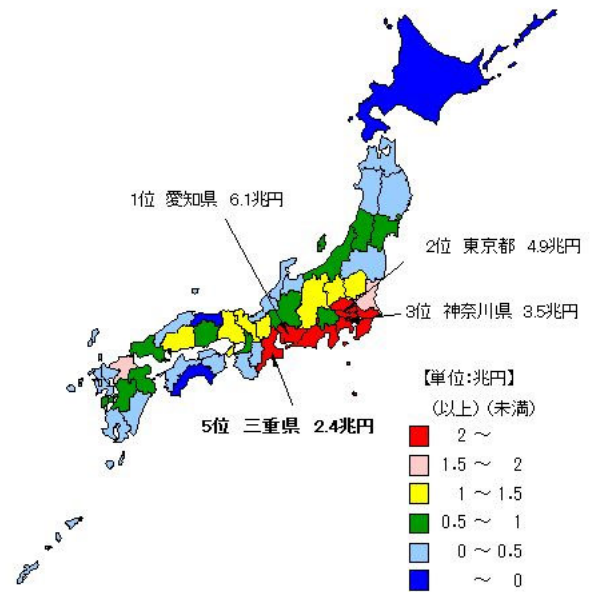


図5 2001年度からの県内総生産(実質連鎖)増加額の全国シェア(2012年度、GDP換算)

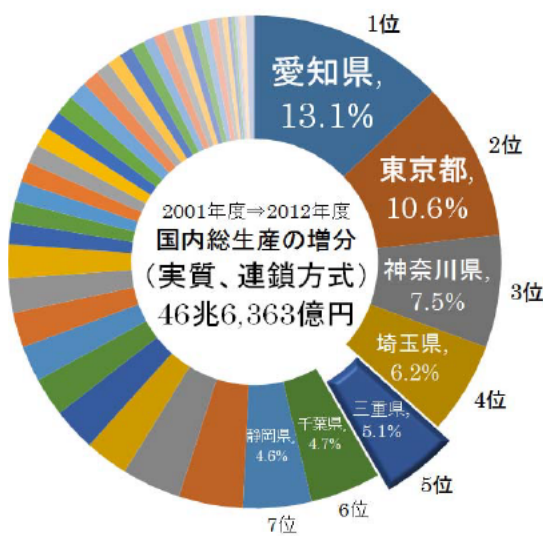


図6 2001年度からの県内総生産(実質連鎖)増加額(2012年度、GDP換算)

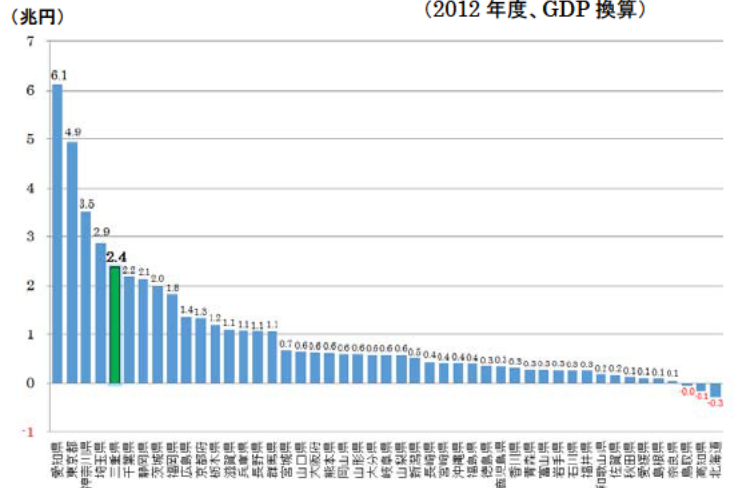


図7 県内総生産(実質連鎖)実額指数の推移(2001年度=100)

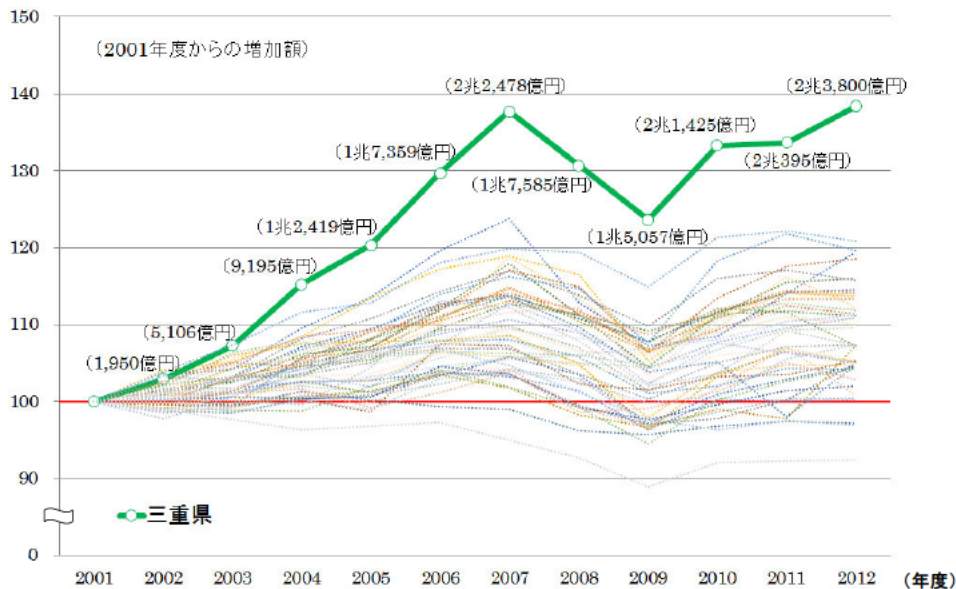


図4～7 (出所)『国民経済計算(平成13～24年度)』:内閣府 『国民経済計算2013年度確報』:内閣府



### 3. 1人当たり県内総生産(実質、連鎖方式)の伸び率日本一

表1は、2001～2012年度における1人当たり県内総生産(実質、連鎖方式)のトップ10を表した表になります。三重県は2004年度からトップ10入りし、2012年度は約473万円で最高位の3位になっています(図8)。しかし、21世紀最初の12年間(2001～2012年度)で、1人当たり県内総生産(実質、連鎖方式)の推移を指数化したグラフをみると、三重県は全国で一番高い伸び率となっています(図9、10)。

表1 1人当たり県内総生産(生産側、実質：連鎖方式) - 平成17暦年連鎖価格 -

2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012			
順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額		
1	東京都 765.1	1	東京都 757.1	1	東京都 762.1	1	東京都 782.2	1	東京都 789.9	1	東京都 789.9	1	東京都 783.4	1	東京都 758.7	1	東京都 720.6	1	東京都 722.0	1	東京都 735.8	1	東京都 733.5		
2	大阪府 439.3	2	愛知県 430.9	2	愛知県 451.8	2	愛知県 472.8	2	愛知県 486.8	2	愛知県 509.4	2	愛知県 523.3	2	愛知県 474.3	2	愛知県 480.2	2	愛知県 459.1	2	愛知県 478.1	2	愛知県 459.7		
3	愛知県 438.5	3	大阪府 432.7	3	大阪府 425.6	3	大阪府 442.5	3	静岡県 447.8	3	静岡県 462.1	3	静岡県 469.1	3	静岡県 459.8	3	愛知県 435.2	3	愛知県 455.4	3	愛知県 461.2	3	三重県 473.4		
4	富山県 398.8	4	静岡県 411.7	4	富山県 424.7	4	大阪府 433.7	4	大阪府 443.3	4	愛知県 453.6	4	三重県 462.8	4	三重県 453.7	4	大阪府 424.0	4	三重県 452.3	4	静岡県 455.5	4	三重県 455.7		
5	静岡県 396.0	5	富山県 408.7	5	滋賀県 418.9	5	富山県 430.8	5	滋賀県 436.4	5	大阪府 449.0	5	滋賀県 457.3	5	大阪府 451.1	5	福井県 419.5	5	静岡県 443.0	5	三重県 455.4	5	静岡県 455.6		
6	滋賀県 394.2	6	滋賀県 407.2	6	静岡県 415.2	6	静岡県 428.0	6	富山県 428.0	6	三重県 436.2	6	三重県 436.2	6	三重県 439.6	6	三重県 417.4	6	福井県 438.2	6	富山県 439.0	6	大阪府 439.3		
7	石川県 392.7	7	福井県 389.0	7	福井県 393.6	7	福井県 397.7	7	福井県 414.8	7	富山県 427.7	7	福井県 438.8	7	福井県 430.5	7	静岡県 416.8	7	大阪府 431.0	7	大阪府 439.0	7	富山県 434.3		
8	福井県 389.1	8	石川県 388.3	8	石川県 387.0	8	石川県 390.2	8	福井県 407.1	8	福井県 419.9	8	富山県 429.8	8	富山県 424.9	8	福井県 404.5	8	福井県 427.8	8	福井県 436.4	8	山形県 433.0		
9	岡山県 379.7	9	山口県 381.3	9	山口県 380.4	9	福井県 395.0	9	三重県 405.8	9	福井県 419.7	9	広島県 419.7	9	福井県 418.2	9	山口県 400.3	9	富山県 422.0	9	福井県 433.8	9	福井県 430.5		
10	福井県 368.3	10	福井県 373.6	10	福井県 380.0	10	三重県 388.7	10	山口県 386.9	10	岡山県 418.9	10	福井県 418.9	10	福井県 429.8	10	富山県 416.8	10	富山県 392.2	10	山口県 415.1	10	山形県 424.8	10	茨城県 425.4

図8 1人当たり県内総生産(実質連鎖)(2012年度)

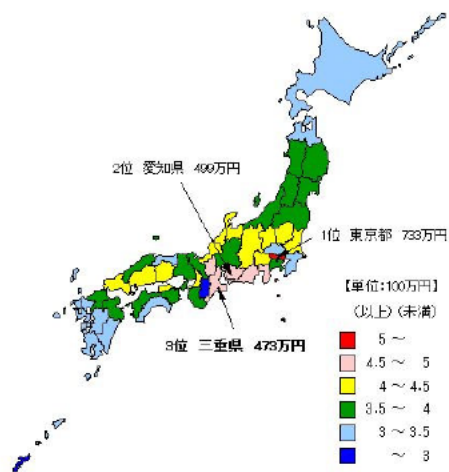


図9 2001年度を100とした1人当たり県内総生産(実質連鎖、2012年度)

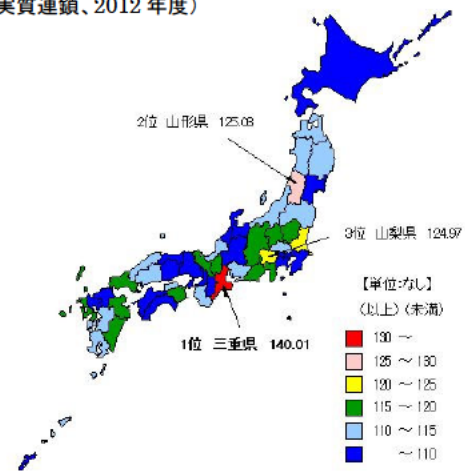


図10 1人当たり県内総生産(実質連鎖)実額指数の推移(2001年度=100)

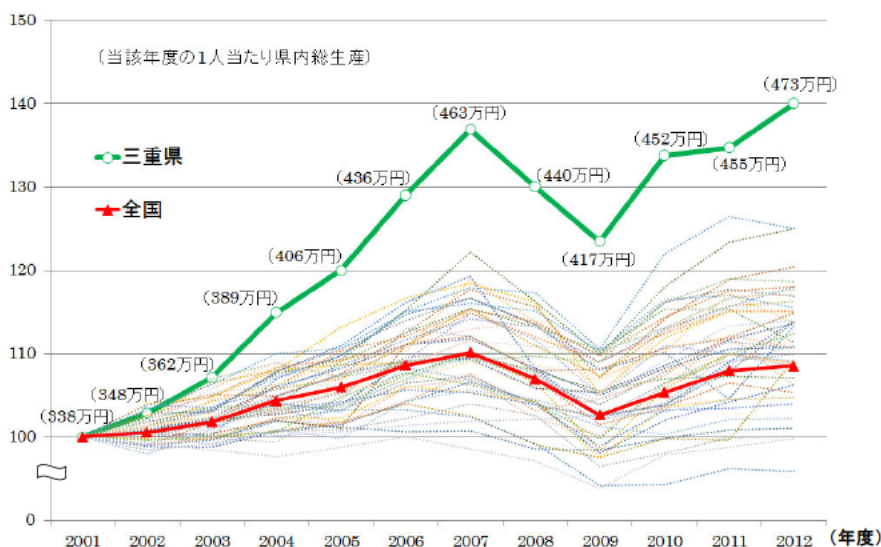


表1、図8~10 (出所)『県民経済計算(平成13~24年度)』:内閣府  
『国民経済計算2013年度確報』:内閣府

#### 4. 1人当たり県内総生産(実質、連鎖方式)の要因分解

1人当たり県内総生産は、下の式のとおり『就業者比率』と『労働生産性』の2つに要因分解することができます。

$$1人当たり県内総生産 = \frac{\text{【就業者比率】}}{\text{就業者数}} \times \frac{\text{【労働生産性】}}{\text{県内総生産}} \times \text{就業者数}$$

##### (1) 就業者比率について

図11は、2001～2012年度の就業者比率の推移を表したグラフになります。三重県は常に全国値を下回っての推移となっており、2012年度は47.7%で22位でした(図12)。21世紀最初の12年間(2001～2012年度)で、就業者比率の推移を指数化しても、全国値を上回る年度もありませんが、直近の3年間は下回っています(図13)。

1人当たり県内総生産を押し上げているのは、就業者比率ではないようです。

図11 就業者比率の推移

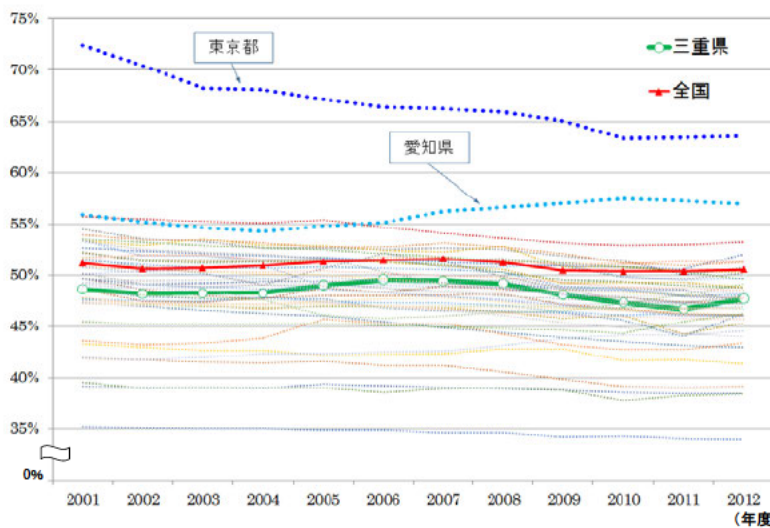


図12 就業者比率(2012年度)

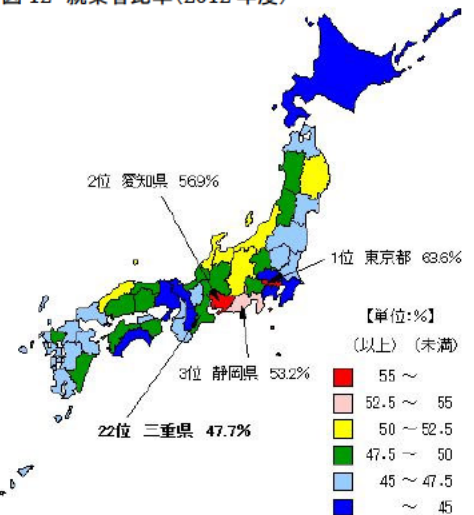


図13 就業者比率指数の推移(2001年度=100)

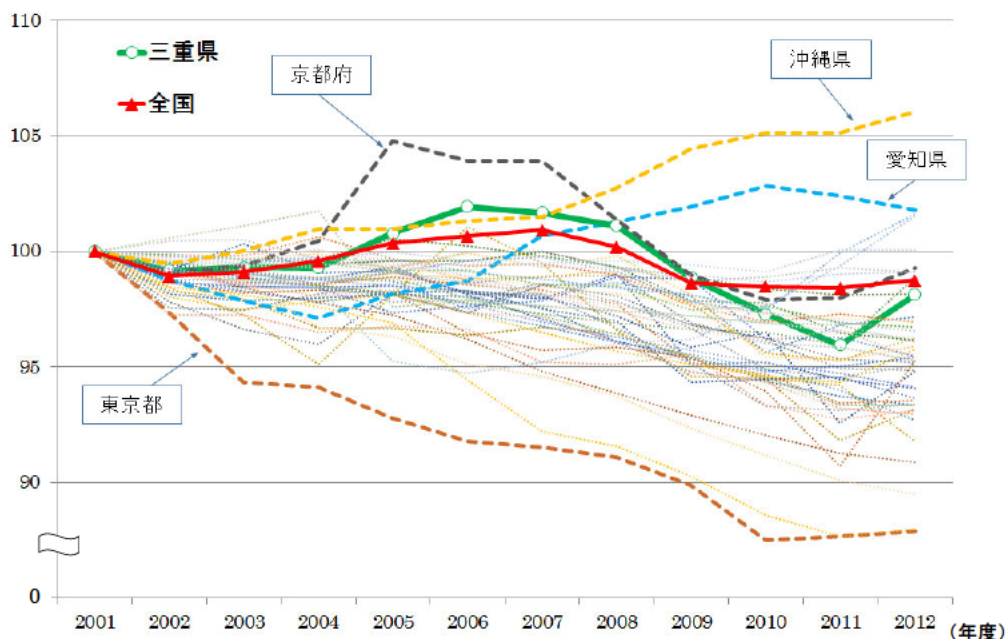


図11～13 (出所)『県民経済計算(平成13～24年度)』:内閣府  
『国民経済計算2013年度確報』:内閣府



(2)労働生産性について

図14は、2001～2012年度の労働生産性の推移を表したグラフになります。三重県は2006年度から全国値を上回り、2012年度は992万円で2位でした(図15)。21世紀最初の12年間(2001～2012年度)で、労働生産性の推移を指数化すると、常に全国値を上回り、2012年度時点で全国唯一伸びが40%を超えています(図16)。2001年度からの増加額でも、297万円で1位となっています(図17)。

1人当たり県内総生産を押し上げているのは、労働生産性で間違いのないようです。

図14 労働生産性の推移

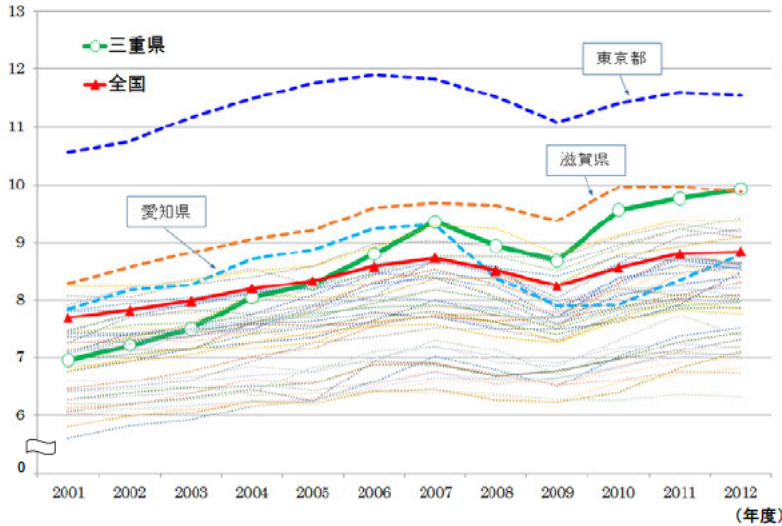


図15 労働生産性(2012年度)

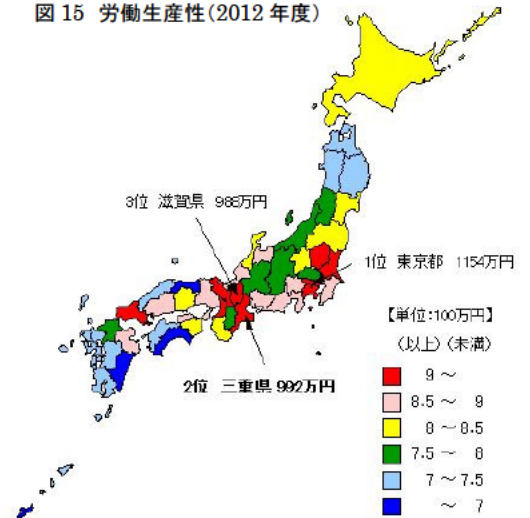


図16 労働生産性指数の推移(2001年度=100)

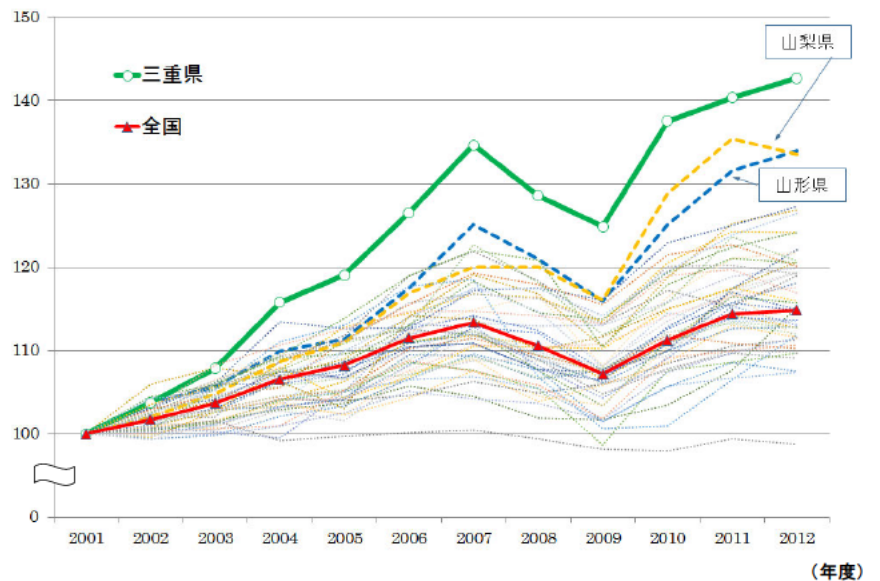


図17 2001年度からの労働生産性の増加額(2012年度)

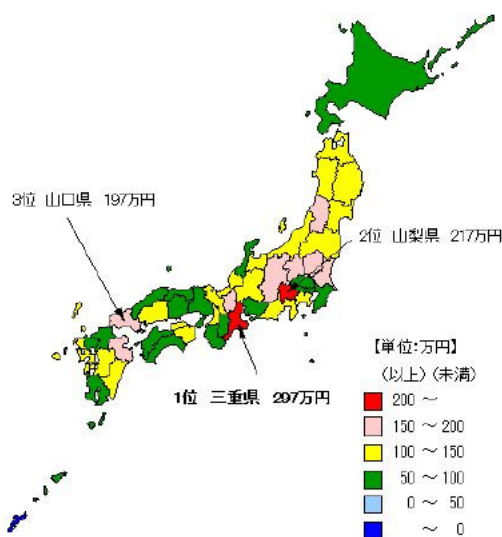


図14～17 (出所)『県民経済計算(平成13～24年度)』:内閣府  
『国民経済計算2013年度確報』:内閣府

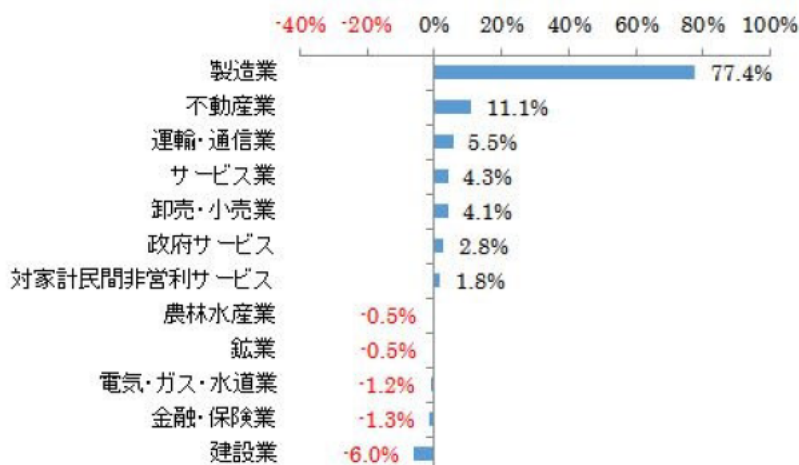
5. 労働生産性の向上に寄与しているのは製造業(電気機械)

労働生産性は、下の式のとおり『各産業の就業人口構成比』と『各産業の労働生産性』の2つに要因分解することができますので、これを用いてどの産業が労働生産性の向上に寄与しているか見てみます。

$$\text{労働生産性} = \sum \left( \frac{\text{各産業の就業人口}}{\text{全産業の就業人口}} \times \frac{\text{各産業の総生産}}{\text{各産業の就業人口}} \right)$$

図 18 は、21 世紀最初の 12 年間(2001～2012 年度)で、労働生産性の向上に寄与した産業を寄与率の高い順に並べたグラフになり、77.4%が製造業の労働生産性向上で説明されることが解ります。

図 18 労働生産性の産業(経済活動)別の寄与率(2001 年度⇒2012 年度)



(出所)『平成 24 年度三重県民経済計算(確報)』:三重県統計課

図 19 は、21 世紀最初の 12 年間(2001～2012 年度)で、製造業の労働生産性向上に寄与した業種を中分類別に寄与率の高い順に並べたグラフになり、87.2%が電気機械の労働生産性向上で説明されることが解ります。

三重県の 1 人当たり県内総生産を押し上げているのは、電気機械の飛躍的な労働生産性の向上が大きな要因でした。

図 19 労働生産性の製造業中分類別の寄与率(2001 年度⇒2012 年度)



(出所)『平成 24 年度三重県民経済計算(確報)』:三重県統計課  
『工業統計』:経済産業省